

効能・効果、用法・用量の追加及び使用上の注意改訂のお知らせ

抗てんかん剤

ラモトリギン錠小児用 2 mg 「日医工」

ラモトリギン錠小児用 5 mg 「日医工」

抗てんかん剤、双極性障害治療剤

ラモトリギン錠 25 mg 「日医工」

ラモトリギン錠 100 mg 「日医工」

ラモトリギン錠

製造販売元 日医工株式会社
富山市総曲輪 1 丁目 6 番 21

この度、ラモトリギン錠小児用 2mg/5mg 「日医工」、ラモトリギン錠 25mg/100mg 「日医工」につきまして、2020 年 2 月 5 日、下記の通り「てんかん患者の定型欠神発作に対する単剤療法」に対する効能・効果の追加に係る承認を取得しました。これに伴い、効能・効果、用法・用量及び使用上の注意を改訂致しますので、お知らせ申し上げます。

今後のご使用に際しましては下記内容をご高覧くださいますようお願い申し上げます。

<改訂内容> (-----: 改訂箇所)

新	旧
【効能・効果】 ○てんかん患者の下記発作に対する単剤療法 部分発作（二次性全般化発作を含む） 強直間代発作 <u>定型欠神発作</u> ○他のてんかん薬で十分な効果が認められないてんかん患者の下記発作に対する抗てんかん薬との併用療法 部分発作（二次性全般化発作を含む） 強直間代発作 Lennox-Gastaut 症候群における全般発作 ○双極性障害における気分エピソードの再発・再燃抑制	【効能・効果】 てんかん患者の下記発作に対する単剤療法 部分発作（二次性全般化発作を含む） 強直間代発作 (追加) 他のてんかん薬で十分な効果が認められないてんかん患者の下記発作に対する抗てんかん薬との併用療法 部分発作（二次性全般化発作を含む） 強直間代発作 Lennox-Gastaut 症候群における全般発作 双極性障害における気分エピソードの再発・再燃抑制
<効能・効果に関連する使用上の注意> 1. <u>定型欠神発作に用いる場合:</u> <u>15 歳以上の患者における有効性及び安全性については確立していないため、15 歳未満で本剤の治療を開始した患者において、15 歳以降も継続して本剤を使用する場合には、患者の状態を十分観察し、治療上の有益性が危険性を上回ると判断される場合にのみ投与すること。</u> 2. <u>双極性障害に用いる場合:</u> 双極性障害の気分エピソードの急性期治療に対する本剤の有効性及び安全性は確立していない。	<効能・効果に関連する使用上の注意> (追加) 双極性障害の気分エピソードの急性期治療に対する本剤の有効性及び安全性は確立していない。

＜改訂内容 続き＞ (: 改訂箇所)

新				旧			
【用法・用量】				【用法・用量】			
○てんかん患者に用いる場合： 成人（ラモトリギン錠 25 mg「日医工」、ラモトリギン錠 100 mg「日医工」）： (1) 単剤療法の場合（部分発作（二次性全般化発作を含む）及び強直間代発作に用いる場合）： （現行通り） (2) バルプロ酸ナトリウムを併用する場合： （現行通り） (3) バルプロ酸ナトリウムを併用しない場合 ^{注1)} ： (3)-i) 本剤のグルクロン酸抱合を誘導する薬剤 ^{注2)} を併用する場合： （現行通り） (3)-ii) (3)-i) 以外の薬剤 ^{注3)} を併用する場合： （現行通り）				てんかん患者に用いる場合： 成人（ラモトリギン錠 25 mg「日医工」、ラモトリギン錠 100 mg「日医工」）： ・単剤療法の場合： （略） ・バルプロ酸ナトリウムを併用する場合： （略） ・バルプロ酸ナトリウムを併用しない場合 ^{注1)} ： (1) 本剤のグルクロン酸抱合を誘導する薬剤 ^{注2)} を併用する場合： （略） (2) (1) 以外の薬剤 ^{注3)} を併用する場合： （略）			
＜参考：てんかん患者に用いる場合（成人）＞				＜参考：てんかん患者に用いる場合（成人）＞			
本剤と併用する薬剤の種類	併用療法			本剤と併用する薬剤の種類	併用療法		
	(2) バルプロ酸ナトリウムを併用する場合	(3) バルプロ酸ナトリウムを併用しない場合 ^{注1)} (3)-i) 本剤のグルクロン酸抱合を誘導する薬剤 ^{注2)} を併用する場合 (3)-ii) (3)-i) 以外の薬剤 ^{注3)} を併用する場合	(1) 単剤療法の場合（部分発作（二次性全般化発作を含む）及び強直間代発作に用いる場合）		バルプロ酸ナトリウムを併用する場合	バルプロ酸ナトリウムを併用しない場合 ^{注1)} (1) 本剤のグルクロン酸抱合を誘導する薬剤 ^{注2)} を併用する場合 (2) (1) 以外の薬剤 ^{注3)} を併用する場合	単剤療法の場合
(現行通り)				(略)			
小児（ラモトリギン錠小児用 2 mg「日医工」、ラモトリギン錠小児用 5 mg「日医工」、ラモトリギン錠 25 mg「日医工」、ラモトリギン錠 100 mg「日医工」）： (1) 単剤療法の場合（定型欠神発作に用いる場合）： 通常、ラモトリギンとして最初の 2 週間は 1 日 0.3 mg/kg を 1 日 1 回又は 2 回に分割して経口投与し、次の 2 週間は 1 日 0.6mg/kg を 1 日 1 回又は 2 回に分割して経口投与する。その後は、1～2 週間毎に 1 日量として最大 0.6 mg/kg ずつ漸増する。維持用量は 1 日 1～10 mg/kg とし、1 日 1 回又は 2 回に分割して経口投与する。症状に応じて適宜増減するが、増量は 1 週間以上の間隔をあけて 1 日量として最大 0.6mg/kg ずつ、1 日用量は最大 200 mg までとし、いずれも 1 日 1 回又は 2 回に分割して経口投与する。 (2) バルプロ酸ナトリウムを併用する場合： （現行通り） (3) バルプロ酸ナトリウムを併用しない場合 ^{注1)} (3)-i) 本剤のグルクロン酸抱合を誘導する薬剤 ^{注2)} を併用する場合： （現行通り） (3)-ii) (3)-i) 以外の薬剤 ^{注3)} を併用する場合： （現行通り）				小児（ラモトリギン錠小児用 2 mg「日医工」、ラモトリギン錠小児用 5 mg「日医工」、ラモトリギン錠 25 mg「日医工」、ラモトリギン錠 100 mg「日医工」）： （追加） ・バルプロ酸ナトリウムを併用する場合： （略） ・バルプロ酸ナトリウムを併用しない場合 ^{注1)} ： (1) 本剤のグルクロン酸抱合を誘導する薬剤 ^{注2)} を併用する場合： （略） (2) (1) 以外の薬剤 ^{注3)} を併用する場合： （略）			

<改訂内容 続き> (: 改訂箇所)

新					旧					
<参考：てんかん患者に用いる場合（小児）>					<参考：てんかん患者に用いる場合（小児）>					
本剤と併用する薬剤の種類	併用療法				(1)単剤療法の <u>場合</u> 。 (<u>定型欠神発作に用いる場合</u>)	本剤と併用する薬剤の種類	併用療法			
	(2) <u>バルプロ酸ナトリウムを併用する場合</u>		(3) <u>バルプロ酸ナトリウムを併用しない場合</u> ^{注1)}				バルプロ酸ナトリウムを併用しない場合 ^{注1)}			
	本剤のグルクロン酸抱合を誘導する薬剤 ^{注2)} を併用する場合	本剤のグルクロン酸抱合を誘導する薬剤 ^{注2)} を併用しない場合	(3)- <u>i)</u> 本剤のグルクロン酸抱合を誘導する薬剤 ^{注2)} を併用する場合	(3)- <u>ii)</u> (3)- <u>i)</u> 以外の薬剤 ^{注3)} を併用する場合			本剤のグルクロン酸抱合を誘導する薬剤 ^{注2)} を併用する場合	本剤のグルクロン酸抱合を誘導する薬剤 ^{注2)} を併用しない場合	(1) <u>本剤のグルクロン酸抱合を誘導する薬剤</u> ^{注2)} を併用する場合	(2) (1) <u>以外の薬剤</u> ^{注3)} を併用する <u>場合</u> 。
(現行通り)					<u>0.3mg/kg</u> /日 (1日1回又は2回に分割して投与)	(略)				
					<u>0.6mg/kg</u> /日 (1日1回又は2回に分割して投与)					
					1～2週間毎に最大 <u>0.6mg/kg</u> /日ずつ漸増する。					
					1～ <u>10mg/kg</u> /日 (最大 <u>200mg</u> /日) (1日1回又は2回に分割して投与) (増量は1週間以上の間隔をあけて最大 <u>0.6mg/kg</u> /日ずつ)					

(追加)

<改訂内容 続き> (: 改訂箇所)

新	旧
<用法・用量に関連する使用上の注意> (1)～(3) (現行通り) (4) 本剤を<u>定型欠神発作以外の小児てんかん患者</u>に用いる場合には、他の抗てんかん薬と併用して使用すること。[<u>定型欠神発作以外の国内臨床試験において、本剤単独投与での使用経験はない。</u>] (5)～(8) (現行通り)	<用法・用量に関連する使用上の注意> (1)～(3) (略) (4) 本剤を小児てんかん患者に用いる場合には、他の抗てんかん薬と併用して使用すること。[国内臨床試験において、本剤単独投与での使用経験はない。] (5)～(8) (略)
【使用上の注意】 7. 小児等への投与 <u>てんかんについて、低出生体重児、新生児、乳児又は2歳未満の幼児、及び定型欠神発作以外の単剤療法に対する有効性及び安全性は確立していない。</u> <u>また、双極性障害における気分エピソードの再発・再燃抑制について、小児及び18歳未満の患者に対する有効性及び安全性は確立していない。(使用経験がない。)</u>	【使用上の注意】 7. 小児等への投与 <u>てんかん患者における抗てんかん薬との併用療法について、低出生体重児、新生児、乳児又は2歳未満の幼児に対する安全性は確立していない。また、てんかん患者における単剤療法について、小児等に対する安全性は確立していない。(国内臨床試験において使用経験はない。)</u> 双極性障害における気分エピソードの再発・再燃抑制について、小児及び18歳未満の患者に対する有効性及び安全性は確立していない。(使用経験がない。)

<RMP 資材の改訂 「ラモトリギン錠「日医工」の適正使用のお願い」>

改訂箇所：

- ・「てんかん 小児用 ラモトリギン錠「日医工」処方にあたって」(RMP 資材 6 頁)に【**定型欠神発作：単剤療法**】を追加致しました。
- ・投与スケジュールのグラフに定型欠神発作における単剤療法の投与量を追加致しました。

※次頁より、RMP 資材「ラモトリギン錠「日医工」の適正使用のお願い」を記載しておりますので、ご参照ください。

〈お問い合わせ先〉日医工株式会社 お客様サポートセンター  (0120)517-215

今回の改訂内容につきましては、日本製薬団体連合会発行の「DRUG SAFETY UPDATE (DSU) 医薬品安全対策情報 No. 287」(2020 年 3 月発行)に掲載の予定です。

また、改訂後の添付文書は医薬品医療機器総合機構ホームページ (<http://www.pmda.go.jp/>) ならびに弊社ホームページ「医療関係者の皆さまへ」(<https://www.nichiiko.co.jp/medicine/>) に掲載いたします。

ラモトリギン錠「日医工」の適正使用のお願い —重症皮膚障害と用法・用量の厳守、早期発見に関して—

本剤の投与により、中毒性表皮壊死融解症（Toxic Epidermal Necrolysis：TEN）及び皮膚粘膜眼症候群（Stevens-Johnson 症候群）、薬剤性過敏症症候群等の全身症状を伴う重篤な皮膚障害があらわれることがあり、死亡に至った例も報告されています。

添付文書の【警告】より

本剤の投与により中毒性表皮壊死融解症（Toxic Epidermal Necrolysis：TEN）、皮膚粘膜眼症候群（Stevens-Johnson 症候群）、薬剤性過敏症症候群等の全身症状を伴う重篤な皮膚障害があらわれることがあり、死亡に至った例も報告されているので、以下の事項に注意すること（「用法・用量」、「用法・用量に関連する使用上の注意」、「重要な基本的注意」及び「副作用」の項参照）。

1. 用法・用量を超えて本剤を投与した場合に皮膚障害の発現率が高いことから、**本剤の「用法・用量」**を遵守すること。
 - (1) 投与開始時は定められた用法・用量を超えないこと。バルプロ酸ナトリウム併用時の投与開始 2 週間までは隔日投与にすること（成人のみ）。
 - (2) 維持用量までの漸増時も定められた用法・用量を超えないこと。また、増量時期を早めないこと。
2. 発疹発現時には早期に皮膚科専門医に相談し、適切な処置を行うこと。また、発疹に加え以下に示す症状があらわれた場合には重篤な皮膚障害に至ることがあるので、**直ちに本剤の投与を中止**すること。
発熱（38℃以上）、眼充血、口唇・口腔粘膜のびらん、咽頭痛、全身倦怠感、リンパ節腫脹 等
3. 重篤な皮膚障害の発現率は、小児において高いことが示されているので、特に注意すること。
4. 患者又は家族に対して、発疹や上記の症状があらわれた場合には直ちに受診するよう指導すること。

本剤の投与にあたっては、以下の注意事項を確認してください。

投与開始時には下記の事項にご注意下さい。

1. 発疹等の皮膚障害の発現率は、定められた用法・用量を超えて投与した場合に高いことが確認されています。併用する薬剤の組み合わせに留意して「用法・用量」を遵守してください。
2. 効果発現が早まることを期待して、定められた用法・用量より短時間での増量は行わないでください。
3. 用量調節が必要な患者に対して使用する場合において、体重換算などにより調節した用量に一致する錠剤がない場合には、調節した用量に最も近く、かつ超えない用量になるよう錠剤を組み合わせ投与してください。
4. 患者または家族に対して、以下の事項を十分に説明してください。
 - ・本剤投与に伴う皮膚障害などの有害事象
 - ・用法・用量を厳守すること

- ・発疹や初期症状があらわれた場合には直ちに受診し、医師・薬剤師に本剤を服用していることを伝えること

重篤な皮膚障害の例



図1 体幹の浮腫性紅斑と水疱・びらん^①の例



図2 口唇の出血性びらん・血痂^②の例

(厚生労働省 重篤副作用疾患別対応マニュアル スティーブンス・ジョンソン症候群より引用)

投与中には下記の事項にご注意下さい。

1. 処置が遅れると重篤な転帰をたどることがあります。
 - 発疹発現時には早期に皮膚科専門医に相談及び紹介し、適切な処置を行ってください。
2. 発疹に加えて以下に示す症状があらわれた場合には重篤な皮膚障害に至ることがあります。直ちに本剤を中止してください。



発熱 (38度以上)	眼充血	口唇、口腔 粘膜のびらん	咽頭痛	全身の倦怠感	リンパ節 腫脹

重大な副作用である血球貪食症候群の症状は、重篤な皮膚障害の初期兆候と類似していることから、異常が認められた場合には適切な処置を行ってください。また、本剤の投与中止後も慎重に経過観察を行ってください。国内外の市販後において、投与から4週間以内に発症した例が報告されています。

血球貪食症候群の症状として、発熱、発疹、神経症状、脾腫、リンパ節腫脹、血球減少、高フェリチン血症、高トリグリセリド血症、肝機能障害、血液凝固障害等があらわれることがあります。

ただし、てんかん患者では、本剤の急激な中止により、てんかん重積状態があらわれることがあるので注意してください。

※ 皮膚障害発現時のご対応には、「独立行政法人 医薬品医療機器総合機構『重篤副作用疾患別対応マニュアル（医療関係者向け）』」をご参照ください。

http://www.info.pmda.go.jp/juutoku/juutoku_index.html

3. 重篤な皮膚障害の発現率は、本剤投与開始から 8 週間以内に高く、またバルプロ酸ナトリウムと併用した場合、あるいは小児において高いことが示されています。
本剤の投与にあたっては十分に注意し、異常が認められた場合には、投与を中止し適切な処置を行ってください。
4. 小児において、発現の初期徴候は感染と誤診されやすいので、本剤投与開始 8 週間以内に発疹及び発熱等の症状が発現した場合には特に注意が必要です。
5. 患者または家族に対して、投与中も以下の事項を十分に説明してください。
 - ・本剤投与に伴う皮膚障害などの有害事象
 - ・用法・用量を遵守すること
 - ・発疹や初期症状があらわれた場合には直ちに受診し、医師・薬剤師に本剤を服用していることを伝えること
6. 本剤による発疹等の皮膚症状のために投与を中止した場合には、治療上の有益性が危険性を上回ると判断される場合以外は再投与しないでください。再投与にあたってはいかなる理由で投与を中止した患者においても、維持用量より低い用量から漸増してください。
7. 投与中止から本剤の消失半減期の 5 倍の期間を経過している場合は、初回用量から「用法・用量」に従って再開することが推奨されています。

* 併用薬剤別の消失半減期の 5 倍の期間は下記の通りです。

併用薬剤別のケース	ラモトリギン半減期の 5 倍の期間
バルプロ酸ナトリウムを併用する場合	約 350 時間(=14.58 日)
バルプロ酸ナトリウムも本剤のグルクロン酸抱合を誘導する薬剤も併用しない場合、もしくは本剤の代謝に影響を及ぼさない薬剤を併用する場合	約 170 時間(=7.08 日)
バルプロ酸ナトリウムを併用せず、本剤のグルクロン酸抱合を誘導する薬剤を併用する場合	約 65 時間(=2.71 日)

8. グルクロン酸抱合に影響を与える薬剤を併用開始または中止する場合には、ラモトリギンの用量調節が必要となります。
9. アタザナビル／リトナビル
アタザナビル／リトナビルを併用開始または中止する場合は、ラモトリギンの用量調節が必要になることがあります。
ラモトリギンの代謝を促進する薬剤を併用していない場合は、患者の状態を確認しながら、以下のとおりにラモトリギンの用量を調節してください。
 - 1) アタザナビル／リトナビルの併用開始時
ラモトリギンの維持用量の増量を検討してください。
 - 2) アタザナビル／リトナビルの中止時
ラモトリギンの維持用量の減量を検討してください。
10. 経口避妊薬
経口避妊薬（卵胞ホルモン・黄体ホルモン配合剤）を併用開始または中止する場合は、ラモトリギンの用量調節が必要になります。
経口避妊薬は、ラモトリギンの代謝を促進します。ラモトリギンの代謝を促進する薬剤を併用していない場合は、患者の状態を確認しながら、以下のとおりにラモトリギンの用量を調節してください。
 - 1) 経口避妊薬の併用開始時
ラモトリギンの維持用量の増量を検討してください。
患者によっては、経口避妊薬の併用開始前における維持用量の 2 倍程度（最高 400mg）まで増量が必要となる場合があります。
 - 2) 経口避妊薬の中止時
ラモトリギンの維持用量の減量を検討してください。

患者によっては、経口避妊薬の併用期間における維持用量の半量程度まで減量が必要となる場合があります。

出典：1) ラミクタール錠小児用 2mg、同錠小児用 5mg、同錠 25mg 及び同錠 100mg 審査結果報告書（平成 20 年 7 月 30 日）
2) Wolf P, et al. : J Epilepsy, 5, 73-79 (1992)
3) Yuen AW, et al. : Br J Clin Pharmacol, 33, 511-513 (1992)
4) Binnie CD, et al. : Epilepsia, 27, 248-254 (1986)
5) Jawad S, et al. : Epilepsy Res, 1, 194-201 (1987)
6) Anderson GD, et al. : Clin Pharmacol Ther, 60, 145-156 (1996)
7) Morris RG, et al. : Br J Clin Pharmacol, 46, 547-551 (1998)
8) Yuen WC, et al. : Br J Clin Pharmacol, 26, 242P (1988)

重篤な皮膚障害を予防するために、下記の事項にご注意下さい。

1. 用法・用量を超えて本剤を投与した場合には皮膚障害の発現率が高いことから、本剤の「用法・用量」を遵守してください。
 - 1) 特に、初期漸増時は、定められた用法・用量を超えないでください。
 - 2) 増量のタイミングを守ってください。
2. 皮膚障害の発現が増加し、症状が重篤化しやすくなると考えられる危険因子は、下記の通りです。
 - ・ラモトリギン投与開始から 8 週間以内
 - ・バルプロ酸ナトリウムとの併用
 - ・小児への投与
 - ・用法・用量の非遵守例
 - ・他の抗てんかん薬での薬疹の既往歴
3. バルプロ酸ナトリウム併用の有無によって初回用量及び漸増方法を設定することで、「重篤な皮膚障害」の発現リスクが低減できることが確認されています。

重篤な皮膚障害の発現率及び発現時期は下記の通りです。

1. 承認された用法・用量を超えて本剤を投与した場合、皮膚障害の発現率が高いことが確認されています。

表 1 国内臨床試験における皮膚障害の発現率（VPA 併用時）

	承認用量より高い用量群	承認された用法・用量 ^{注1} 群
皮膚障害の発現率 ^{注2}	10.4% (18 例/173 例) うち重篤 5 例	2.9% (3 例/102 例) うち重篤 1 例

注 1) 本剤の承認された用法・用量は添付文書の表 3 を参照すること。

注 2) 粘膜疹を含む全ての発疹について集計。（発現率＝発現例数/解析対象例数）

表 2 販売開始後の重篤な皮膚障害発現例における用量・用量 遵守状況

	承認された用法・用量 ^{注1} から逸脱した症例 (152 例 160 件)	承認された用法・用量を遵守した症例 (99 例 113 件)
用法・用量の遵守状況 ^{注2} (主な事象の件数 ^{注3})	60.6% (152 例/251 例) 中毒性表皮壊死融解症 9 件 スティーブンス・ジョンソン症候群 33 件 過敏症症候群 27 件	39.4% (99 例/251 例) 中毒性表皮壊死融解症 2 件 スティーブンス・ジョンソン症候群 20 件 過敏症症候群 8 件

注 1) 本剤の承認された用法・用量は添付文書の表 3 を参照すること。

注 2) 平成 20 年 12 月より平成 23 年 11 月までに報告された重篤な皮膚障害発現症例 397 例のうち、用法・用量が確認された 251 例について

注 3) 複数の事象がみとめられた症例を含む。

(PMDA からの医薬品適正使用のお願い No.6 2012 年 1 月より引用)

2. 皮膚障害の重篤性について、国際誕生日から約 15 年 7 ヶ月の期間に集積された副作用を元に皮膚障害の重篤性を検討したところ、小児に投与した場合に、成人よりも高いことが確認されています。

年齢区分	重篤な事象の割合
成人	33.5% (1382/4124 件)
小児	47.4% (440/929 件)

(ラミクタール錠小児用 2mg、同錠小児用 5mg、同錠 25mg 及び同錠 100mg 審査結果報告書 (平成 20 年 7 月 30 日) より引用)

3. 本剤の投与開始から 8 週以内に皮膚障害の発現率が高いことが確認されています。

単剤療法及び併用療法の国内臨床試験における発現時期別の皮膚障害関連の有害事象

	1-14 日	15-28 日	29-42 日	43-56 日	57 日以上
単剤療法 (LAM115376 試験 ^{a)})	6.2 (4/65)	5.2 (3/58)	1.8 (1/55)	0 (0/53)	5.9 (3/51)
併用療法 (LAM107844 試験 ^{b)})	3.9 (2/51)	2.0 (1/51)	2.0 (1/51)	3.9 (2/51)	0 (0/50)

発現割合 (%) (発現例数)

a) 維持療法終了時まで b) 成人のみ

(ラミクタール錠 25mg、同錠 100mg 審査結果報告書 (平成 26 年 7 月 14 日) より引用)

ラモトリギン錠「日医工」の用法・用量に関する情報は次のページからの「処方にあたって」の資料の通りです。

※ 効能・効果及び併用薬によって初期投与量及び維持用量が異なっています。

「処方にあたって」の資料は、A4 版のものをご用意しております。

資料請求又はご不明な点がございましたら、弊社 MR 又はお客様サポートセンターまで、お問い合わせ下さい。

日医工株式会社 お客様サポートセンター

〒930-8583 富山市総曲輪 1 丁目 6 番 21



(0120) 517-215

Fax (076) 442-8948

＜薬剤師の先生方へのお願い＞

定められた用法・用量を超えて投与した場合に皮膚障害の発現が高くなるため、調剤される場合には**用法・用量のご確認**をお願い申し上げます。用法・用量に疑義が生じた場合は、**疑義照会**をしていただきますようよろしくお願い申し上げます。

また、患者様向けの資料もご用意しております。調剤される際には、**患者様向け資料をご利用の上、患者様、ご家族様への服薬指導の徹底**をよろしくお願い申し上げます。

POINT

発作型および併用する薬剤に応じて投与スケジュールが決まっています。
小児の適応は部分発作・強直間代発作・Lennox-Gastaut症候群は併用療法のみ、
定型欠神発作は単剤療法のみとなります。

【部分発作・強直間代発作・Lennox-Gastaut症候群：併用療法】

■バルプロ酸ナトリウムとの併用療法もしくは併用

■ラモトリギンの代謝への影響が不明な薬剤との併用療法

主な薬剤（一般名）

・ガバペンチン/カルバマゼピン/ゾニサミド/トピラマート/フェニトイン/フェノバルビタール/
プリミドン/ペランパネール/ラコサミド/レベチラセタム以外でのてんかんの治療に用いる薬剤

↓ いいえ

■ラモトリギンの代謝を促進する薬剤との併用療法もしくは併用
(バルプロ酸ナトリウム非併用)

主な薬剤（一般名）

・カルバマゼピン ・フェニトイン ・フェノバルビタール ・プリミドン
・リファンピシン ・ロピナビル・リトナビル配合剤

↓ いいえ

■ラモトリギンの代謝に影響を及ぼさない薬剤との併用療法もしくは併用
(バルプロ酸ナトリウム非併用)

主な薬剤（一般名）

・ガバペンチン ・ゾニサミド ・トピラマート ・ペランパネール ・ラコサミド ・レベチラセタム
・アリピプラゾール ・オランザピン ・リチウム ・シメチジン ・プレガバリン

【定型欠神発作：単剤療法】

■ラモトリギン単剤療法

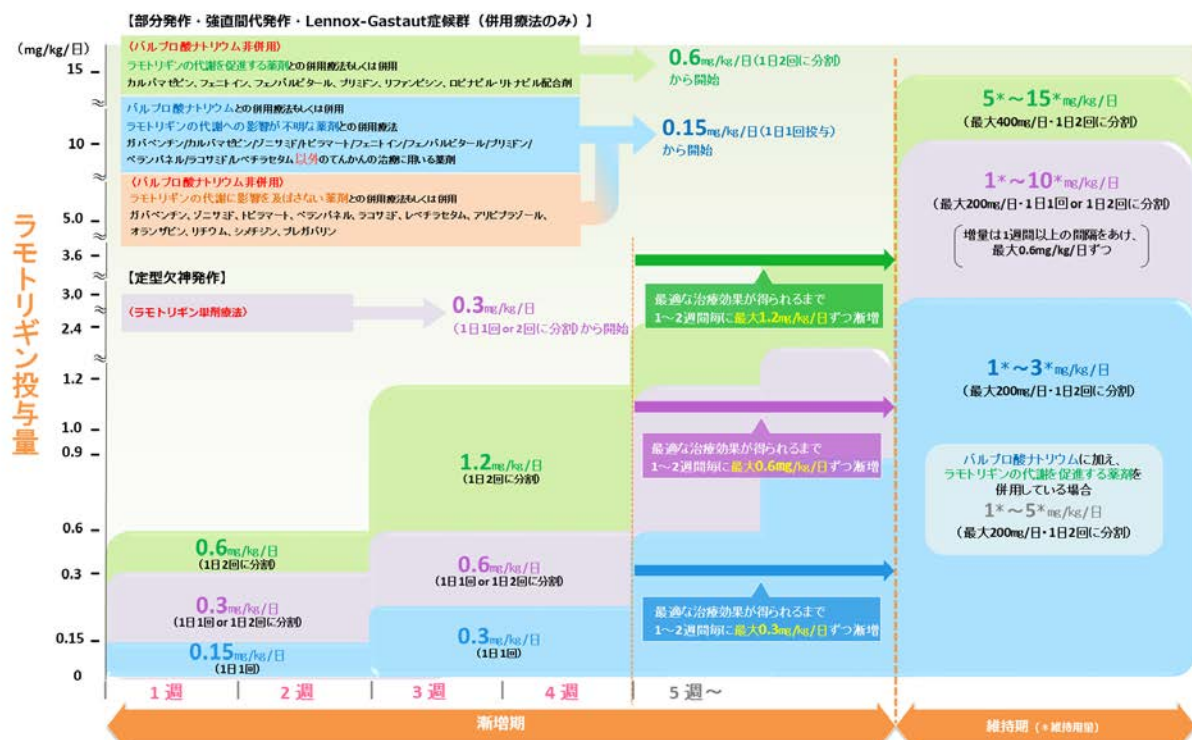
※投与初期(1～2週)に体重換算した1日用量が以下の場合は注意してください。
(1～2mgの範囲内) 2mg錠を隔日に1錠服用ください。
(1mg未満) 本剤を服用しないでください。
体重変化を観照し、必要に応じ適切に用量の変更を行ってください。
2～6歳の小児の場合は維持用量の上限付近の用量が必要な場合があります。

製造販売元 日医工株式会社

【製品情報お問い合わせ先】
お客様サポートセンター ☎(0120)517-215

ラモトリギン錠「日医工」添付文書2020年2月(第5版)
2020年2月改訂

発作型および併用する薬剤に応じて
投与スケジュールが決まっています



※投与初期(1～2週)に体重換算した1日用量が以下の場合は注意してください。
(1～2mgの範囲内) 2mg錠を隔日に1錠服用ください。
(1mg未満) 本剤を服用しないでください。
体重変化を観照し、必要に応じ適切に用量の変更を行ってください。
2～6歳の小児の場合は維持用量の上限付近の用量が必要な場合があります。

ラモトリギン錠「日医工」添付文書2020年2月(第5版)
2020年2月改訂

ラモトリギン錠「日医工」処方にあたって

下記事項を確認し、処方・調剤をお願い申し上げます。

POINT

併用する薬剤に応じて
投与スケジュールが決まっています

- バルプロ酸ナトリウムとの併用療法もしくは併用
- ラモトリギンの代謝への影響が不明な薬剤との併用療法
主な薬剤(一般名)
 - ガバベンチン/カルバマゼピン/ノニサミド/トピラマート/
フェニトイン/フェノバルビタール/プリミドン/ペランパネル/
ラコサミド/レベチタラム 以外のてんかんの治療に用いる薬剤

はし

はし

↓ いいえ

- **ラモトリギンの代謝を促進する薬剤との併用療法もしくは併用**
(バルプロ酸ナトリウム非併用)
- 主な薬剤(一般名)
- カルバマゼピン
 - フェノバルビタール
 - リファンピシン
 - フェニトイン
 - プリミドン
 - ロビナビル・リトナビル配合剤



↓ いいえ

- **ラモトリギン単剤療法もしくは**
ラモトリギンの代謝に影響を及ぼさない薬剤との併用療法
 もしくは併用(バルプロ酸ナトリウム非併用)
- 主な薬剤(一般名)
- ガバペンチン
 - ペンバミドール
 - アリピプラゾール
 - シメチジン
 - ソニサミド
 - ラコサミド
 - オランザピン
 - プリガバリン
 - トピラマート
 - レベチラセタム
 - リチウム

はい

はい

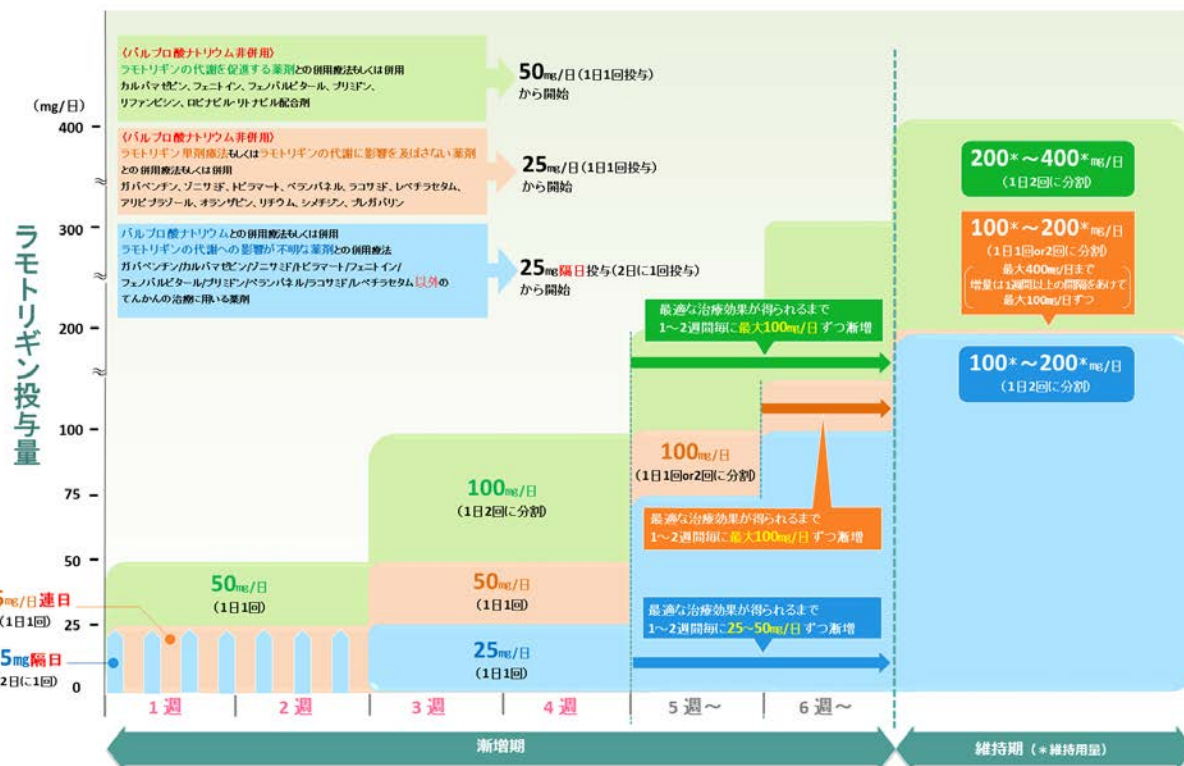
ラモトリギン錠「日医工」添付文書2020年2月(第5版)
2020年2月改訂

製造販売元 日医工株式会社

【製品情報お問い合わせ先】
お客様サポートセンター ☎(0120)517-215

ラモトリギン錠「日医工」処方にあたって

併用する薬剤に応じて
投与スケジュールが決まっています

ラモトリギン錠「日医工」添付文書2020年2月(第5版)
2020年2月改訂

下記事項を確認し、処方・調剤をお願い申し上げます。

POINT 併用する薬剤に応じて
投与スケジュールが決まっています



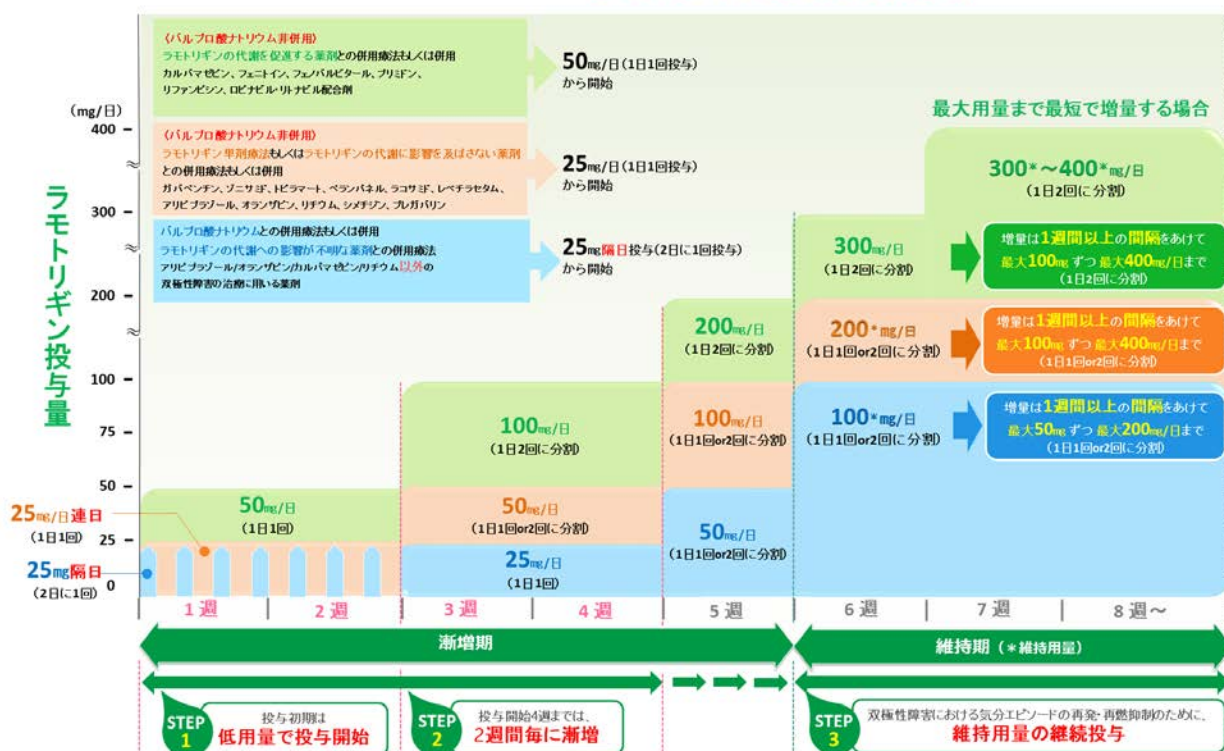
ラモトリギン錠「日医工」添付文書2020年2月(第5版)
2020年2月改訂

製造販売元 日医工株式会社

【製品情報お問い合わせ先】
お客様サポートセンター ☎ (0120)517-215

併用する薬剤に応じて
投与スケジュールが決まっています

患者さんそれぞれにあった治療のための ラモトリギン 3 STEP 投与



ラモトリギン錠「日医工」添付文書2020年2月(第5版)
2020年2月改訂